

轉法輪經

Dhammacakkapavattanasuttaṃ



Dhammacakkappavattanasuttam

ダンマチャッカパワッタナスuttan

Evam me sutam, ekaṃ samayaṃ bhagavā,
エーワン メー スタン エーカン サマヤン バガワー
Bārāsiyaṃ viharati, Isipatane Migādaye, tatra kho
バーラナシヤン ウィハラティ イシパタネー ミガダーイエー タトラ コー
bhagavā pañcavaggiye bhikkhū āmantesi,
バガワー パンチャワグギイエー ビックー アーマンテーシ

“Dve me bhikkhave antā pabbajitena na sevitaḥ,
ドゥエー メー ビッカウエー アンター パッバジテーナ ナ セーウィッタッパ
yo cāyaṃ kāmesu kāmasukhallikānuyogo, hīno
ヨー チャーヤン カーメース カーマスカッリカーヌヨーゴー ヒーノー
gammo pothujaniko anariyo anattasañhito,
ガンモー ポットウッジャニコー アナリヨー アナッタサンヒト
yo cāyaṃ attakilamathānuyogo, dukkho anariyo
ヨー チャーヤン アッタキラマターヌヨーゴー ドウッコー アナリヨー
anattasañhito,
アナッタサンヒト

ete te bhikkhave upho ante anupagamma,
エーテー テー ビッカウエー ウポー アンテー アヌパガンマ
majjhimā paṭipadā tathāgatena abhisambuddhā
マッジマー パティパダー タターガテーナ アビサンブッダー
cakkhukaraṇī ñāṇakaraṇī upasamāya abhiññāya
チャックカラニー ニャーナカラニー ウパサマーヤ アビンニャーヤ
sambodhāya nibbānāya samvattati.
サンボーダーヤ ニッバーナーヤ サンワッタティ.

転法輪經

このように、わたしによって聞かれた。

あるとき、尊師は、バーラーナシーにある仙人の集まるところ

(イシパタナ)の鹿の園(ミガダーヤ)に滞在していた。

そこで、尊師は五人の比丘たちに呼びかけた。

比丘たちよ、これら二つの極端は、出家者が親しみ近づいてはな

らないものである。それは、愛欲において欲楽の生活に耽溺する

ことであり、下劣で卑しく、凡夫に属するものであって、聖なら

ざるものであって、利益のないものである。そして(もう一つ

は)、苦行を实践することであり苦しみであり、聖ならざるもの

であって、利益のないものである。

比丘たちよ。これら二つの極端に近づくことなく、

中道が如来によって悟られた。

それは、目を開き、知をもたらし、寂静、証智、正覚、涅槃に導

くのである。

Katamā ca sā bhikkhave majjhimā paṭipadā,
カタマー チャ サー ビッカウエー マッジマー パティパダー
tathāgatena abhisambuddhā, cakkhukaraṇī
タターガテーナ アビサンブッダーチャックカラニー
ñāṇakaraṇī upasamāya abhiññāya sambodhāya
ニャーナカラニー ウパサマーヤ アビンニャーヤ サンボダーヤ
nibbānāya samvattati, ayameva ariyo aṭṭhaṅgiko
ニッバーナーヤ サンワッタティ アヤメーワ アリヨー アツタンギコー
maggo, seyyathīdam,

マッゴーセッヤティーダン

sammādiṭṭhi sammāsaṅkappo,

サンマーディッティ サンマーサンカッポー

sammāvācā sammākammanto

サンマーワーチャー サンマーカンマントー

sammā-ājīvo sammāvāyāmo

サンマーアージーウォー サンマーワーヤーモー

sammāsati sammāsamādhī,

サンマーサティ サンマーサマーディ

ayaṃ kho sā bhikkhave majjhimā paṭipadā,

アヤン コー サー ビッカウエー マッジマー パティパダー

tathāgatena abhisambuddhā, cakkhukaraṇī

タターガテーナ アビサンブッダーチャックカラニー

ñāṇakaraṇī upasamāya abhiññāya sambodhāya

ニャーナカラニー ウパサマーヤ ヤアビンニャーヤ サンボダーヤ

nibbānāya samvattati.

ニッバーナーヤ サンワッタティ.

Idaṃ kho pana bhikkhave dukkhaṃ ariyasaccaṃ,

イダン コー パナ ビッカウエー ドウッカナン アリヤサッチャナン

比丘たちよ、如来によって悟られた中道は、

目を開き、

知をもたらし、寂静、証智、正覚、涅槃を導くが、それはどの
ようなものか。

これこそ、聖なる八つの道である。

これは次のようなものである。

正見、 正思、

正語、 正業、

正命、 正精進、

正念、 正定 である。

比丘たちよ。これが、如来によって悟られた中道であって、それ

は、目を開き、

知をもたらし、寂静、証智、正覚、

涅槃を導くのである。

比丘たちよ、じつに、<これ>が、苦しみなる、聖なる真理であ
る。

ātipi dukkhā jarāpi dukkhā maraṇampi dukkham,
ジャーティピ ドウッカー ジャラーピ ドウッカー マラナンピ ドウッカン
sokaparidevadukkhadomnassupāyāsapi dukkhā,
ソーカ パリデーウアドウッカドーマナッスパーヤーサーピ ドウッカー
appiyehi sampayogo dukkho piyehi vippayogo
アッピイエーヒ サンパヨーゴー ドウッコー ピイエーヒ ウィッパヨーゴー
dukkho yampiccham na labhati tampi dukkham,
ドウッコー ヤンピッチャン ナ ラバティ タンピ ドウッカン
saṅkhittena pañcupādānakkhandhā dukkhā,
サンキッターナ パンチューパーダーナッカンダー ドウッカー

idaṃ kho pana bhikkhave dukkhasamudayo
イダン コー パナ ビッカウエー ドウッカサムダヨ
ariyasaccam, yāyam taṇhā ponobhaviḥ
アリアサッチャン ヤーヤン タンハー ポーノーバウイカー
nandirāgasahagatā tatra tatrābhinandinī,
ナンディラーガサハガター タトラ タトラービナンディニー
seyyathīdaṃ, kāmataṇhā bhavataṇhā vibhavataṇhā,
セツヤティーダン カーマタンハー バワタンハー ウィバワタンハー

idaṃ kho pana bhikkhave dukkhanirodhao
イダン コー パナ ビッカウエー ドウッカニロードー
ariyasaccam, yo tassā yeva taṇhāya
アリアサッチャン, ヨー タッサー イエーワ タンハーヤ
asesavirāganirodho cāgo paṭinissaggo mutti anālayo,
アセーサウィラーガニロードー チャーゴー パティニッサッゴー ムッティ アナーラヨ

idaṃ kho pana bhikkhave dukkhanirodhagāminī
イダン コー パナ ビッカウエー ドウッカニロードーガミニー
paṭipadā ariyasaccam,
パティパダー アリアサッチャン

生も苦しみであり、老いも苦しみであり、死も苦しみである。

愁・悲・苦・憂・悩も、苦しみである。

怨憎のものに会い関わるのは、苦しみである。愛するものとの
別離は、苦しみである。求めたものが得られないのも苦しみで
ある。要するに、五取蘊（人間を構成する五つの集まりは、苦
しみである。

比丘たちよ、じつに、<これ>が、苦しみの原因なる、聖なる
真理である。再生をもたらし、喜びと貪りをともない、あちこ
ちで歓喜に満たされる渴愛である。これは次のようなものであ
る。欲の渴愛と有の渴愛と無有の渴愛である。

比丘たちよ、じつに、<これ>が、苦しみの滅なる、
聖なる真理である。その渴愛を残りなく離れ滅し、
捨て、放棄して、解脱し、執着のないものとなることである。

比丘たちよ、じつに、<これ>が、苦しみの滅に向かう道な
る、聖なる真理である。

ayameva ariyo aṭṭhaṅgiko maggo seyyathīdaṃ,
 アヤメーワ アリヨー アツタンギコー マグゴ セツヤティーダン
 sammāditṭhi sammāsaṅkappo,
 サンマーディッティ サンマーサンカッポー
 sammāvācā sammākammanto
 サンマーワーチャー サンマーカンマントー
 sammā-ājīvo sammāvāyāmo
 サンマーアージーウォー サンマーワーヤーモー
 sammāsati sammāsamādhī.
 サンマーサティ サンマーサマーディ

Idaṃ dukkhaṃ ariyasaccanti me bhikkhave,
 イダン ドウツカン アリヤサツチャンティ メー ビッカウエー
 pubbe ananussutesu dhammesu, cakkhuṃ
 プッペー アナヌッステース ダンメース チャクン
 udapādi nāṇaṃ udapādi paññā udapādi
 ウダパーディ ニャーナン ウダパーディ パンニャー ウダパーディ
 vijjā udapādi āloko udapādi,
 ウィッジャー ウダパーディ アーローコー ウダパーディ
 taṃ kho panidaṃ dukkhaṃ ariyasaccaṃ
 タン コー パニダン ドウツカン アリヤサツチャン
 pariññeyyanti me bhikkhave, pubbe ananussutesu
 パリンニエーヤンティ メー ビッカウエープッペー アナヌッステース
 dhammesu, cakkhuṃ udapādi nāṇaṃ udapādi
 ダンメース チャクン ウダパーディ ニャーナン ウダパーディ
 paññā udapādi vijjā udapādi
 パンニャー ウダパーディ ウィッジャー ウダパーディ
 āloko udapādi,
 アーローコー ウダパーディ

それは、じつに聖なる八つの道である。これは次のようなものである。

正見、 正思、
 正語、 正業、
 正命、 正精進、
 正念、 正定 である。

<これ>は、苦しみなる、聖なる真理であると、比丘たちよ、わたしにとって、いまだかつて聞かれなかった法において、眼が生じ、知が生じ、智慧が生じ、
 明智が生じ、光明が生じた。

また、<これ>である、苦しみなる、聖なる真理は、証知すべきであると、比丘たちよ、わたしにとって、いまだかつて聞かれたことのなかった法において、眼が生じ、知が生じ、智慧が生じ、明智が生じ、
 光明が生じた。

taṃ kho panidaṃ dukkhaṃ ariyasaccaṃ
タン コー パニダン ドウツカン アリヤサツチャン
pariññānti me bhikkhave, pubbe ananussutesu
パリンニャータンティ メー ビッカウエー プッベー アナヌスステース
dhammesu, cakkhuṃ udapādi ñāṇaṃ udapādi
ダンメース チャクン ウダパーディ ニャーナン ウダパーディ
paññā udapādi vijjā udapādi
パンニャー ウダパーディ ウィツジャー ウダパーディ
āloko udapādi.
アーローコー ウダパーディ.

Idaṃ dukkhasamudayo ariyasaccanti me
イダン ドウツカサムダヨー アリヤサツチャンティ メー
bhikkhave, pubbe ananussutesu dhammesu,
ビッカウエー プッベー アナヌスステース ダンメース
cakkhuṃ udapādi ñāṇaṃ udapādi paññā
チャクン ウダパーディ ニャーナン ウダパーディ パンニャー
udapādi vijjā udapādi āloko udapādi
ウダパーディ ウィツジャー ウダパーディ アーローコー ウダパーディ
taṃ kho panidaṃ dukkhasamudayo ariyasaccaṃ
タン コー パニダン ドウツカサムダヨー アリヤサツチャン
pahātabbanti me bhikkhave, pubbe ananussutesu
パハータブバンティ メー ビッカウエー プッベー アナヌスステース
dhammesu, cakkhuṃ udapādi ñāṇaṃ udapādi
ダンメース チャクン ウダパーディ ニャーナン ウダパーディ
paññā udapādi vijjā udapādi
パンニャー ウダパーディ ウィツジャー ウダパーディ
āloko udapādi,
アーローコー ウダパーディ

また、<これ>である、苦しみなる、聖なる真理は、
証知されたと、比丘たちよ、わたしにとって、いまだかつて聞
かれたことのなかった法において、眼が生じ、知が生じ、智慧
が生じ、明智が生じ、
光明が生じた。

<これ>は、苦しみの原因なる、聖なる真理であると、比丘た
ちよ、わたしにとって、いまだかつて聞かれなかった法におい
て、眼が生じ、知が生じ、
智慧が生じ、明智が生じ、光明が生じた。

また、<これ>である、苦しみの原因なる、聖なる真理は、
捨てるべきであると、
比丘たちよ、わたしにとって、いまだかつて聞かれたことの
なかった法において、眼が生じ、知が生じ、智慧が生じ、明智
が生じ、
光明が生じた。

taṃ kho panidaṃ dukkhasamudayo ariyasaccaṃ
タン コー パニダン ドウッカサムダヨー アリヤサツチャン
pahīnanti me bhikkhave, pubbe ananussutesu
パヒーナンティ メー ビッカウエー プッペー アナヌッステース
dhammesu, cakkhuṃ udapādi ñāṇaṃ udapādi
ダンメース チャクン ウダパーディ ニヤーナン ウダパーディ
paññā udapādi vijjā udapādi
パンニヤー ウダパーディ ウィツジャー ウダパーディ
āloko udapādi.
アーローコー ウダパーディ.

Idaṃ dukkhanirodho ariyasaccanti me bhikkhave,
イダン ドウッカニロードー アリヤサツチャンティ メー ビッカウエー
pubbe ananussutesu dhammesu, cakkhuṃ udapādi
プッペー アナヌッステース ダンメース チャクン ウダパーディ
ñāṇaṃ udapādi paññā udapādi vijjā udapādi
ニヤーナン ウダパーディ パンニヤー ウダパーディ ウィツジャー ウダパーディ
āloko udapādi,
アーローコー ウダパーディ
taṃ kho panidaṃ dukkhanirodho ariyasaccaṃ
タン コー パニダン ドウッカニロードー アリヤサツチャン
sacchikātabbanti me bhikkhave, pubbe
サツチカータツバンティ メー ビッカウエー プッペー
ananussutesu dhammesu, cakkhuṃ udapādi
アナヌッステース ダンメース チャクン ウダパーディ
ñāṇaṃ udapādi paññā udapādi vijjā udapādi
ニヤーナン ウダパーディ パンニヤー ウダパーディ ウィツジャー ウダパーディ
āloko udapādi,
アーローコー ウダパーディ

また、<これ>である、苦しみの原因なる、聖なる真理は捨て
られたと、比丘たちよ、わたしにとって、いまだかつて聞かれ
たことのなかった法において、眼が生じ、知が生じ、智慧が生
じ、明智が生じ、
光明が生じた。

<これ>は、苦しみの滅なる、聖なる真理であると、比丘たち
よ、わたしにとって、いまだかつて聞かれなかった法におい
て、眼が生じ、知が生じ、智慧が生じ、明智が生じ、
光明が生じた。

また、<これ>である、苦しみの滅なる、聖なる真理は、証明
すべきであると、比丘たちよ、わたしにとって、いまだかつ
て聞かれたことのなかった法において、眼が生じ、知が生じ、
智慧が生じ、明智が生じ、
光明が生じた。

taṃ kho panidaṃ dukkhanirodho ariyasaccaṃ
タン コー パニダン ドウッカニロードー アリヤサッチャン
sacchikatanti me bhikkhave, pubbe ananussutesu
サッチカタンティ メー ビッカウエー プッベー アナヌスステース
dhammesu, cakkhuṃ udapādi ñāṇaṃ udapādi
ダンメース, チャックン ウダパーディ ニャーナン ウダパーディ
pañña udapādi vijjā udapādi
パンニャー ウダパーディ ウィッジャー ウダパーディ
āloko udapādi.
アーローコー ウダパーディ.

Idaṃ dukkhanirodhagāminī paṭipadā ariyasaccanti
イダン ドウッカニロードーダガーミニー パティパダー アリヤサッチャンティ
me bhikkhave, pubbe ananussutesu dhammesu,
メー ビッカウエー プッベー アナヌスステース ダンメース
cakkhuṃ udapādi ñāṇaṃ udapādi pañña
チャックン ウダパーディ ニャーナン ウダパーディ パンニャー
udapādi vijjā udapādi āloko udapādi,
ウダパーディ ウィッジャー ウダパーディ アーローコー ウダパーディ
taṃ kho panidaṃ dukkhanirodhagāminī paṭipadā
タン コー パニダン ドウッカニロードーダガーミニー パティパダー
ariyasaccaṃ bhāvetabbanti me bhikkhave,
アリヤサッチャン バーウエータッバンティ メー ビッカウエー
pubbe ananussutesu dhammesu, cakkhuṃ
プッベー アナヌスステース ダンメース, チャックン
udapādi ñāṇaṃ udapādi pañña udapādi
ウダパーディ ニャーナン ウダパーディ パンニャー ウダパーディ
vijjā udapādi āloko udapādi,
ウィッジャー ウダパーディ アーローコー ウダパーディ

また、<これ>である、苦しみの滅なる、聖なる真理は、証明
されたと、比丘たちよ、わたしにとって、いまだかつて聞かれ
たことのなかった法において、眼が生じ、知が生じ、
智慧が生じ、明智が生じ、光明が生じた。

<これ>は、苦しみの滅に向かう道なる、聖なる真理である
と、比丘たちよ、わたしにとって、いまだかつて聞かれたこと
のなかった法において、眼が生じ、明智が生じ、智慧が生じ、
明智が生じ、光明が生じた。

また、<これ>である、苦しみの滅に向かう道なる、聖なる真
理は、修習すべきであると、比丘たちよ、わたしにとって、い
まだかつて聞かれたことのなかった法において、眼が生じ、
知が生じ、智慧が生じ、明智が生じ、光明が生じた。

taṃ kho panidaṃ dukkhanirodhagāmini

タン コー パニダン ドウッカニローダガ－ミニ－

paṭipadā ariyasaccaṃ bhāvitanti me bhikkhave,

パティパダー アリヤサツチャン バーウイタンティ メー ビッカウエー

pubbe ananussutesu dhammesu, cakkhuṃ

プッペー アナヌッステース ダンメース チャツクン

udapādi nāṇaṃ udapādi paññā udapādi

ウダパーディ ニャーナン ウダパーディ パンニャー ウダパーディ

vijjā udapādi āloko udapādi.

ウィッジャー ウダパーディ アーローコー ウダパーディ。

Yāva kīvañca me bhikkhave imesu catūsu

ヤーワ キーワンチャ メー ビッカウエー イメース チャトウース

ariyasaccesu, evaṃtiparivaṭṭaṃ dvādasākāraṃ

アリヤサツチェース エーワンティパリワツタン ドワーダサーカーラン

yathābhūtaṃ nāṇadassanaṃ na suvisuddhaṃ ahoṣi,

ヤターブータン ニャーナダッサナン ナ スウィスツダン アホーシ

neva tāvāhaṃ bhikkhave sadevake loke samārake

ネーワ ターワーハン ビッカウエー サデーワケー ローケー サマーラケー

sabrahmake, sassamaṇabrāhmaṇiyā pajāya

サブラフマケー サッサマナブラーフマニャー パジャーヤ

sadevamanussāya, anuttaraṃ sammāsambodhiṃ

サデーワマヌッサーヤ アヌッタラン サンマーサンボーディン

abhisambuddho paccaññāsim,

アビサンブッドー パツチャンニャーシン

yato ca kho me bhikkhave imesu catūsu

ヤトー チャ コー メー ビッカウエー イメース チャトウース

ariyasaccesu, evaṃtiparivaṭṭaṃ dvādasākāraṃ

アリヤサツチェース エーワンティパリワツタン ドワーダサーカーラン

また、<これ>である、苦しみの滅に向かう道なる、

聖なる真理は、修習されたと、比丘たちよ、わたしにとって、

いまだかつて聞かれたことのなかった法において、眼が生じ、

知が生じ、智慧が生じ、

明智が生じ、光明が生じた。

比丘たちよ、これら四つの聖なる真理において、このように、

三度転ずる十二相のものである、如実なる知見が、

完全に清浄とならなかったあいだは、わたしは、

比丘たちよ、神、悪魔、梵天を含む、沙門・バラモン、

人と神とともにある世界において、無上の正等覚を悟ったと、

公言することはなかった。

比丘たちよ、これら四つの聖なる真理において、このように、

三度転ずる十二相のものである、如実なる

yathābhūtaṃ nāṇadassanaṃ suvisuddhaṃ ahoṣi,
ヤターブータン ニャーナダッサナン スウィスツダン アホーシ
athāhaṃ bhikkhave sadevake loke samārake
アターハン ビッカウェー サデーワケー ローケー サマーラケー
sabrahmaṃ, sassamaṇabrāhmaṇiyā pajāya
サブラフマケー サッサマナブラーフマニヤー パジャーヤ
sadevamanussāya, anuttaraṃ sammāsambodhiṃ
サデーワマヌッサーヤ アヌッタラン サンマーサンポーディン
abhisambuddho paccaññāsīm, nāṇaṇca pana me
アビサンブドー パッチャンニャーシン ニャーナンチャ パナ メー
dassanaṃ udapādi, akuppā me vimutti,
ダッサナン ウダパーディ アクッパー メー ウィムツティ
ayamantimā jāti, natthi dāni punabbhavoti,
アヤマンティマー ジャーティ ナツティ ダーニ プナツパウォーティ
idamavoca bhagavā, attamaṇā pañcavaggiyā
イダマウォーチャ バガワー アッタマナー パンチャワッギヤー
bhikkhū bhagavato bhāsitaṃ abhinandum,
ビク୍କー バガワトー バーシタン アビナンドウン
imasmañca pana veyyākaraṇasmim bhaññamāne,
イマスミンチャ パナ ウェッヤーカラナスミン バンニャマーネー
āyasmato Koṇḍaññaṃ virajam, vītamalaṃ
アーヤスマトー コンダンニャッサ ウィラジャン ウィータマラン
dhammacakkhum udapādi,
ダンマチャククン ウダパーディ
yaṇkiñci samudayadhammaṃ sabbantaṃ
ヤンキンチ サムダヤダンマン サツバンタン
nirodhadhammanti.
ニローダダンマンティ.

知見が、完全に清浄となってから、わたしは、

比丘たちよ、神、悪魔、梵天を含む、沙門・バラモン、

人と神ともなる世界において、無上の正等覚を悟ったと、公
言したのである。

じつに、わたしには、知と見とが生じた。

すなわち、『堅固であるのは、わたしの解脱である。これが、最
後の生まれである。今や、ないのは再生である』と。このよう
に、尊師は語った。心かなかった五人の比丘たちは、尊師の説い
たことを大いに喜んだ。

ところで、この解説が説かれているときに、

コンダンニャ尊者に、塵を離れ垢を離れた法の眼が生じた。す
なわち『およそ何であれ、生ずる性質のものは滅する性質であ
る』と。

Pavattite ca bhagavatā dhammacakke,
パワッティテー チャ バガワター ダンマチャッケー
Bhummā devā saddamanussāvesuṃ,
ブンマー デーワ サッドマヌッサウエースン
etambhagavatā Bārāṇasiyaṃ Isipatane Migadāye
エータンバガワター バーラナシヤン イシパタネー ミガダイエー
anuttaraṃ dhammacakkaṃ pavattitaṃ,
アヌッタラン ダンマチャッカナン パワッティタン
appativattiyaṃ samaṇena vā brāhmaṇena vā
アッパティワッティヤン サマナーナ ワー ブラフマナーナ ワー
devena vā mārena vā brahmunā vā
デーウェーナ ワー マーレーナ ワー ブラフムナー ワー
kenaci vā lokasminti,
ケーナチ ワー ローカスミンティ

Bhummānaṃ devānaṃ saddaṃ sutvā,
ブンマーナン デーワナン サッダナン ストワー
Cātummahārājikā devā saddamanussāvesuṃ,
チャートウンマハーラージカー デーワ サッドマヌッサウエースン
Cātummahārājikānaṃ devānaṃ saddaṃ sutvā,
チャートウンマハーラージカーナン デーワナン サッダナン ストワー
Tāvatiṃsā devā saddamanussāvesuṃ,
ターワティンサー デーワ サッドマヌッサウエースン
Tāvatiṃsānaṃ devānaṃ saddaṃ sutvā,
ターワティンサーナン デーワナン サッダナン ストワー
Yāmā devā saddamanussāvesuṃ,
ヤーマー デーワ サッドマヌッサウエースン
Yāmānaṃ devānaṃ saddaṃ sutvā,
ヤーマーナン デーワナン サッダナン ストワー

じつに、このように、尊師によって法輪が転ぜられているとき
(法が説かれているとき)、地の神々は声をあげた。

尊師によって、このような無上の法輪が、バーラーナシーにあ
る仙人の集まるところ（イシパタナ）の鹿の園（ミガダーヤ）
において、転ぜられた。それは、沙門にも、バラモンにも、神
にも、悪魔にも、梵天にも、あるいは、世界にいるどんな者に
よっても、反対されることはないだろう。

地の神々の声を聞いて、
四大王の神々（四天王天）も声をあげた。
四大王の神々の声を聞いて、
三十三天の神々も、声をあげた。
三十三天の神々の声を聴いて、
夜摩天の神々も、声をあげた。
夜摩天の神々の声を聞いて、

Tusitā devā saddamanussāvesuṃ
ツシター デーワー サッドマヌッサーウエースン
Tusitānaṃ devānaṃ saddaṃ sutvā,
ツシターナン デーワーナン サッダン ストワー
Nimmāṇaratī devā saddamanussāvesuṃ,
ニンマーナラティー デーワー サッドマヌッサーウエースン
Nimmāṇaratīnaṃ devānaṃ saddaṃ sutvā,
ニンマーナラティーナン デーワーナン サッダン ストワー
Paranimmitavasavattī devā saddamanussāvesuṃ,
パラニミッタワサワッティー デーワー サッドマヌッサーウエースン
Paranimmitavasavattīnaṃ devānaṃ saddaṃ sutvā,
パラニミッタワサワッティーナン デーワーナン サッダン ストワー
Brahmakāyikā devā saddamanussāvesuṃ,
ブラフマカーイカー デーワー サッドマヌッサーウエースン
etambhagavatā Bārāṇasiyaṃ Isipatane Migadāye
エータンバガワター バーラナシヤン イシパタネー ミガダイエー
anuttaraṃ dhammacakkaṃ pavattitaṃ,
アヌッタラン ダンマチャッカナン パワッティタン
appativattiyaṃ samaṇena vā brāhmaṇena vā
アッパティワッティヤン サマネーナ ワー ブラフマネーナ ワー
devena vā mārena vā brahmunā vā
デーウェーナ ワー マーレーナ ワー ブラフムナー ワー
kenaci vā lokasminti,
ケーナチ ワー ローカスミンティ
itiha tena khaṇena tena muhuttana, yāva
イティハ テーナ カネーナ テーナ ムフッテーナ ヤーワ
Brahmalokā saddo abbhuggacchi, ayañca
ブラフマローカー サッドー アッブッガッチ アヤンチャ

兜率天の神々も、声をあげた。

兜率天の神々の声を聞いて、

樂変化天の神々も、声をあげた。

樂変化天の神々の声を聞いて、

他化自在天の神々も、声をあげた。

他化自在天の神々の声を聞いて

梵衆天の神々が、声をあげた。

尊師によって、このような無上の法輪が、パーラーナシーにある仙人の集まる場所（イシパタナ）の鹿の園（ミガダーヤ）において、転ぜられた。

それは、沙門にも、バラモンにも、神にも、悪魔にも、梵天にも、あるいは、世界にいるどんな者によっても、反対されることはないだろう。

この刹那、この瞬間、このわずかの時間に、

梵天界にいたるまで、声があがっていった。

dasasahassī lokadhātu saṅkampi sampakampi
ダササハッシー ローカダートウ サンカンピ サンパカンピ
sampavedhi, appamaṇo ca oḷāro obhāso
サンパウエーディ アッパマーノー チャ オーラーロー オーバーソー
loke pāturahosi, atikkammeva devānaṃ
ローケー パートウラホーシ アティッカンメーワ デーワーナン
devānubhāvaṃ, athakho bhagavā udānaṃ udānesi,
デーワーヌバーワン アタコー バガワー ウダーナン ウダーネーシ
aññāsi vata bho Koṇḍañño,
アンニヤーシ ワタ ボー コンダンニョー
aññāsi vata bho Koṇḍaññoti,
アンニヤーシ ワタ ボー コンダンニョー
itihidaṃ āyasmato Koṇḍaññassa,
イティヒダン アーヤスマトー コンダンニャッサ
Aññākoṇḍaññotveva nāmaṃ ahoṣīti.
アンニヤーコンダンニョートウエーワ ナーマン アホーシーティ.

この一万の世界は震え、大きく震え、

激しく震動した。無量の広大なる光明が顕れ、

それは、神々の天の威力を超えてたのである。

さて、その時、尊師は、感興のことばを発した。

『了解したのは、じつに、友よ、コンダンニャだ。

了解したのは、じつに、友よ、コンダンニャだ』と。

こうして、コンダンニャ尊者には、まさに

『了解したコンダンニャ』という名前がつけられることになっ

たのである。

石飛 道子 訳

パーリ『相応部』に含まれる「転法輪経」は以上であるが、パーリ『律蔵』の小品はこの後に次の語句を加えた編集がなされている。

その時、尊者アンニヤーシコンダンニャは師の教えにおいて法を見、法に達し、法を知り、法に悟入し、疑惑を越え、疑念が消失し、無畏(絶対の自信)に達し、師の教えに措いて他によることなく、「世尊よ、私は世尊の御許において出家したい。具足戒を得たい」と世尊に申し上げました。

世尊は「さあ来るがよい、比丘よ。法はよく説かれた。苦を滅尽するためによく梵行を行ぜよ」と言われました。

これがその尊者の受具足戒でありました。

『基本聖典』「転法輪経」 pp.71-72 ウ、ウェーブツラ長老訳

さらに「小品」では、憍陳如以外の残りの四人も法眼を得て、出家と具足戒を得たことを述べ、さらにそのあとで、仏陀は「五蘊無我」の教理を述べている。

『法と縁起』pp.223-224 平川 彰